

2026 年度

(自 2026 年 4 月 1 日 ~ 至 2027 年 3 月 31 日)

事業計画書



目次

I 学校法人宝塚大学 2026 年度 事業方針

1. 本法人を取り巻く状況	……	1
2. 現中期計画(2022 年度～2026 年度)の概要	……	1
3. 本法人の経営状況と 2026 年度における財政基盤の強化策	……	2
4. 2026 年度 予算編成の基本方針	……	3

II 宝塚大学の事業計画

1 教育の質の充実ときめ細かい学生支援		
① 社会の要請に応える質の高い教育の展開	……	4
② 学生一人一人へのきめ細やかなサポート	……	9
2 研究の深化と社会への寄与		
③ 社会の発展に寄与する研究の充実	……	15
④ 大学院の改革による高度な人材育成	……	16
⑤ 社会連携・地域活動の推進	……	16
3 ガバナンスの強化と持続的組織運営		
⑥ 学生の確保と戦略的広報の推進	……	18
⑦ ガバナンスの強化による経営改革	……	21
⑧ 持続的・安定的な財政基盤の確立	……	24
⑨ 第2の開校に向けての前進	……	25
⑩ 内部質保証システムの推進	……	26

III 教学組織

学部・研究科・専攻科の構成及び入学定員 (別紙①)

IV 学年暦

1. 東京メディア芸術学部(東京新宿キャンパス) (別紙②)
2. 看護学部(大阪梅田キャンパス) (別紙③)

I 学校法人宝塚大学 2026 年度 事業方針

1. 本法人を取り巻く状況

近年の社会情勢の著しい変化は、高等教育を取り巻く情勢にも大きな影響を及ぼしている。とりわけ急速に進行している少子化に加え、国際情勢や物価高騰等は様々な形で本法人に対して影響を与えている。

私立学校を取り巻く状況としては、実効性のあるガバナンス改革を推進する目的で制度改正された私立学校法が 2025 年 4 月に施行され、それに基づき本法人も寄附行為を改正した。新たな私立学校法及び寄附行為に基づいて、より強固なガバナンス体制のもとで法人運営を行うため、今年度は引き続きその基盤を固める期間とする。

このような状況のもと、本法人では、中期計画(2022～2026 年度)の策定を先行させたが、2023 年 10 月には「宝塚大学ビジョン 2027(2023 年度版)」(以下「ビジョン」という。)を策定し、「宝塚大学がめざす大学像」とともに、中期計画の柱となる3つの基軸内容を示している。このビジョンに基づき、現中期計画の最終年度である 2026 年度までの目標達成に向けて、計画の内容を着実に遂行しなければならない。

なお、この遂行にあたっては法人の堅実な財務基盤が必要であることはいうまでもないが、特に看護学部における学生募集の低迷、世界的な物価高騰等によって、当初の計画よりも収支の見通しが不透明になっている状況であることは否めない。

本法人は、このような状況を踏まえつつ、持続的・安定的な財務基盤の確立を模索し、より良い教育研究活動を行う教育機関として、さらなる発展を目指し事業を展開する。

2. 現中期計画(2022 年度～2026 年度)の概要

本学の建学の精神である、他大学にはない「芸術と科学の協調」のもと、豊かな感性、創造性、実践力を持った優秀な人材の育成をより一層重視し、これからの時代で活躍し、たくましく生き抜く人材を輩出していく。

このため、ビジョンにおける「宝塚大学がめざす大学像」の実現に向けて、3つの基軸に基づき、実行に移していくためのアクションプランとなるのが現中期計画である。この計画に沿って先進的で魅力ある教育を学生に提供するなど、教育研究力を高めていくとともに、持続可能な法人運営の基盤を確固たるものにしていく。

また、2022 年度～2026 年度をその期間とする現中期計画は、本法人が社会の要請を受けてその役割を果たすため、3つの基軸のもとに達成すべき 10 の基本戦略を掲げた。

1 教育の質の充実ときめ細かい学生支援

① 社会の要請に応える質の高い教育の展開

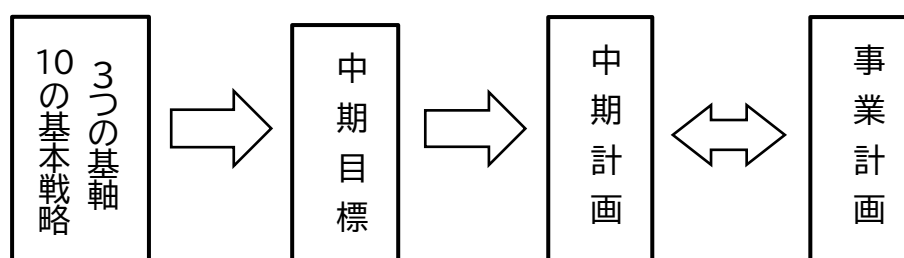
② 学生一人一人へのきめ細やかなサポート

2 研究の深化と社会への寄与

③ 社会の発展に寄与する研究の充実

- ④ 大学院の改革による高度な人材育成
- ⑤ 社会連携・地域活動の推進
- 3 ガバナンスの強化と持続的組織運営
 - ⑥ 学生の確保と戦略的広報の推進
 - ⑦ ガバナンスの強化による経営改革
 - ⑧ 持続的・安定的な財政基盤の確立
 - ⑨ 第2の開校に向けての前進
 - ⑩ 内部質保証システムの推進

これらの戦略の実現に向けて、計画では具体的に達成すべき目標(中期目標)を定めるとともに、達成するために取り組むべき方策(中期計画)を取りまとめている。この中期目標・中期計画に連動させて、毎年度の事業計画を取りまとめることで、建学の精神から日々の業務運営までを一貫性のあるかたちで繋げていく。



3. 本法人の経営状況と2026年度における財政基盤の強化策

(1) 財務健全化に向けて

本学は、2018年度から2023年度の6年間にわたって継続的に入学定員の充足を果たし、財務健全化へ一歩ずつ進んできたものの、2024年度及び2025年度は看護学部において入学定員割れとなった。2026年度の同学部入学者数は定員を回復する傾向にあるが、大学全体の収容定員充足率が100%を下回ることは、法人全体の財務運営が非常に厳しくなることを意味する。他方では、2016年度をもって長期・短期全ての借入金を返済し、それ以降は借入金が無い状態での経営を続けている。

財務健全化の努力を重ねているものの、教育・研究活動を推進するために必要なさらなる支出の増加等も予想されるため、今後の経常収支の黒字化は不透明な状況になりつつある。しかしながら、財務の健全化は本法人運営の全ての基盤であり、その目標は掲げ続けなければならない。引き続き、教育環境の充実化や法人の将来的な発展に必要な支出は適切に執行するが、予算管理による経費の見直しを徹底して行うことや、全学挙げての積極的な外部資金の獲得を図るなどの多様な収入源を確保することにより、財務の健全化を図っていく。

(2) 収益力の確保に向けて

2026年度は現中期計画の最終年度となるが、持続可能な法人運営を目指し、教育機関としてのさ

らなる発展に向けた、健全な経営を確固たるものにするための基盤を作っていかなければならない。次期中期計画にはその視点をもとに、高等教育の動向等を考慮しながら、大学としての将来像を明示することになっている。既存キャンパスの中長期的な維持管理方法の検討、既存学部を含めた大学全体の将来像のランドデザインの検討など、全学的に前向きな取り組みを開始していく。また、学納金収入のみに依存しない経営方策、資産運用等も視野に入れて、収益力の確保を目指す。

(3)機動的な法人運営に向けて

大学が直面する課題の広がりに対して、小規模大学としての迅速な対応及び組織運営の効率化等による機動的な法人運営を行うため、機構改革や人事異動を行う。本法人の経営状況等を踏まえると、大学法人として扱うべき課題は増えており、今後も組織体制は固定化せず、機能性を重視した改革意識を堅持していく。また、大阪梅田と東京新宿という遠隔地に 2 キャンパスを設置しているため、各拠点の状況把握、情報の統合といった法人の役割は、より一層強化・充実していく必要がある。特にデジタルツールを用いたやり取りや情報のデジタル化をより一層進め、経営の機動的な意思決定に用いる。

4. 2026 年度 予算編成の基本方針

本法人の事業展開の大前提は「学生にとって学びやすい環境であること」、「教員にとって教えやすい環境であること」、「職員にとって働きやすい環境であること」の実現である。これらを大前提に現中期計画における中期目標の実現に向けた取り組みを念頭に置き、2026 年度の予算編成にあたって重視する項目を下記の通り打ち出した。

1	東京メディア芸術学部・メディア芸術研究科における教育改革・改善の取り組み	基本戦略1・4
2	看護師・助産師をめざす国家試験対策	基本戦略2
3	留学生支援の充実と国際交流の拡充	基本戦略2
4	各種経済支援制度の充実	基本戦略2
5	有用性の高い研究による研究成果の社会への還元	基本戦略3
6	産学官との連携による地域社会への貢献と地域・高大連携の充実	基本戦略5
7	高大連携による大学教育への円滑な移行	基本戦略6
8	本学の特長や求める学生像の発信と学生の安定的な受け入れ	基本戦略6
9	人事管理による教職員の確保と配置	基本戦略7
10	キャンパスの維持管理と計画的な施設整備	基本戦略8
11	2027 年度の法人創設 60 周年、大学設立 40 周年、東京メディア芸術学部 20 周年事業準備	

なお、本法人が今後とも持続可能な運営を行っていくためには、経常収支差額の改善をはじめとする財政の健全化・強靱化を果たす必要があるため、収支均衡を十分に図りながら事業を展開する。

II 宝塚大学の事業計画

本学の2026年度事業計画は、3つの基軸・10の基本戦略のもと、中期目標・中期計画に沿って下記の通りとする。

1 教育の質の充実ときめ細かい学生支援

<基本戦略> ① 社会の要請に応える質の高い教育の展開

【中期目標】

- ①-① 魅力あるカリキュラムを編成・実施するとともに、学生の能力・スキル修得のため、基礎学力はもとより、グローバル社会を主体的に生き抜く力を養成する。

<中期計画>

- 本学の特長、強みを活かした充実したカリキュラムの編成・実施

<2026年度事業計画>

【看護学部】

○2024年度改訂版看護学教育モデルコア・カリキュラムを踏まえ、次カリキュラムの編成に着手する。

【東京メディア芸術学部】

○次回のカリキュラム改編に向けて、ロードマップの設定(各分野のディプロマ・ポリシーの設定、現カリキュラムの検証、今後のスケジュールの確定)を行い、改善点を明らかにする。

<中期計画>

- 大学間連携による単位互換制度等の推進

<2026年度事業計画>

【看護学部】

○引き続き、単位互換事業に提供する科目を他大学の科目テーマや受講者数等を参考に検討を進める。

【東京メディア芸術学部】

○引き続き、海外研修を実施する。海外の大学との単位互換、交換留学などの制度について検討を行う。

<中期計画>

- 情報教育科目等の開講の準備

<2026年度事業計画>

【看護学部】

○2026年度改訂カリキュラムより、必修科目「情報Ⅰ」及び2026年度より必修化される「情報Ⅱ」

において、情報リテラシー、データサイエンス、生成AIに関する教育を提供する。

【東京メディア芸術学部】

○インターンシップ科目の連携企業の拡大を目指し、現状は教員などの研究などの連携によって検討を行っているが、さらなる拡大を模索する。

<中期計画>

●教育課程の運用面における取り組みの推進

<2026年度事業計画>

【看護学部】

○新カリキュラムにおけるカリキュラムマップを作成する。

【東京メディア芸術学部】

○新カリキュラム1年目の内容を検証し、改善点の洗い出しを行う。

<中期計画>

●社会変化に柔軟に対応した教養教育等の強化

<2026年度事業計画>

【看護学部】

○2026年度より教養教育推進委員会にて、入学時に理科・数学・国語の学力試験を実施する予定である。一定の学力に満たない学生に対する支援体制の構築、成績データを活用した専門科目履修に伴う問題点の抽出、学修相談窓口の設置により、基礎学力の向上と円滑な専門科目学修の促進を図る。

【東京メディア芸術学部】

○これまでの内容を継続した入学前教育を進めつつ、必要な改善を模索していく。

○教養科目の改編に伴い、授業評価アンケートなどをもとに授業改善を計画する。

○次回のカリキュラム改編のために、学部のディプロマ・ポリシーを達成するための分野ごとの能力目標の設定を行う。また、分野ごとの軸を定めて次回のカリキュラム改編の計画を進める。

<中期計画>

●主体的・協働的な学びとなるアクティブ・ラーニングの推進

<2026年度事業計画>

【数値目標: アクティブ・ラーニング型科目の実施率】

【看護学部】

○アクティブ・ラーニングの実施率を維持しつつ、その効果の検証を行い、学修効果の向上を図る。

○看護科目におけるシミュレーション教育を推進していく。

【東京メディア芸術学部】

○引き続き、アクティブ・ラーニングを前提としたカリキュラム編成を実施する。

<中期計画>

●遠隔・オンライン授業を組み入れたハイブリッド型教育の実施

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

○オンライン教育を推進しつつ、自己主導型学修の支援を行う。

【東京メディア芸術学部】

○引き続き、実習・演習科目・外国語科目は対面実施をメインとし、その他講義科目では繰り返し試聴することによる理解の深化が見込まれるため、オンライン授業の活動も実施する。知見が積み重ねられているオンライン授業の効果などを参考に、より教育効果のある内容に継続的に改善を行う。

【中期目標】

①-② 3つのポリシーに基づき、学修者本位の教育を実施するため、教学マネジメント体制の確立を図る。

<中期計画>

●学長のリーダーシップのもと、教学マネジメント体制による教学改革の推進

<2026 年度事業計画>

○学修者本位の大学教育の実現に向けた内部質保証の体制づくりのため、以下の教学改革を推進する。

- ・全学的な教学マネジメントとして改善する制度的枠組みの明確化
- ・FD・SD・IR と学位プログラム、教学マネジメントとの接続を構築
- ・全学の内部質保証推進に責任を負う組織体制を規程上に明確化。自己点検・評価が質保証より内部管理に近い位置づけである点を改め、内部質保証体制を再構築。

【看護学部】

○新カリキュラムに基づき、学生、教員ともにティーチング・ポートフォリオの適正な導入と運用の活性化を図る。

○看護学教育評価に向けて、可視化された学生からのデータに基づく組織的取り組みの整備を行う。

【東京メディア芸術学部】

○2029 年度のカリキュラム改編に向けて、分野ごとの到達目標等の再定義を進め、教育の可視化に向けた取り組みを進める。

○引き続き、ティーチング・ポートフォリオに関わる改善を進める。

<中期計画>

●ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの一体性・整合性の確保

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

○ディプロマ・ポリシーのルーブリック評価を LMS(教務システム)上で実施し、学修の成果を蓄積

できるようにする。

○ディプロマ・ポリシーと授業科目との関連性を明確化する根拠とするため、ディプロマ・ポリシーを構成要素に分解し、各要素をコンピテンシー(資質・能力)として定義する。

【助産学専攻科】

○引き続き、「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度目標」と「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」を用いて学修並びに実践能力評価を行う。

【東京メディア芸術学部】

○分野ごとのディプロマ・ポリシーの策定と科目ごとのディプロマ・ポリシーの反映の整合性の確認を行う。

【中期目標】

①-③ 学生の学修成果の測定・評価により、教育課程を改善するための改革サイクルを確立する。

<中期計画>

●科目間の成績評価基準の平準化により、学業成績を総合的に判断する GPA 制度の活用

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

○科目間の成績評価基準の平準化に向け、具体的な手法を検討する。

○教務委員会内で学修指導の問題事例についての話し合いは継続する。また、教員間の指導の統一が図れるように、他教員の授業に入り、教員同士がピア・ラーニングできる場を作っていく。

【東京メディア芸術学部】

○学部だけでなく、分野ごとのディプロマ・ポリシーを整頓し、成績評価の改善のために検証を行う予定であり、その作業・検証を行うための体制の改善を行う。

<中期計画>

●アセスメント・ポリシー(アセスメントプラン)による学修成果の点検・評価と可視化

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

○ディプロマサプリメントについて具体的な検討の前段階として、他大学事例の収集と導入効果の検討を行う。

○各種調査の分析結果を大学全体で共有し、学修成果の点検を進める。

○本学の今後の教育に寄与できるような卒業生調査の内容・方法を検討するとともに、回収率 50%以上を目指す。

【東京メディア芸術学部】

○ディプロマサプリメントの導入効果に関する検討結果に基づき、具体的な導入に関する検討を行う。

<中期計画>

●IRによる検証・分析の充実

<2026年度事業計画>

【数値目標:学生アンケート調査(対象)教育や学生生活の満足度、身につけた知識や能力】

【全学】

○本学におけるIR機能を、学位プログラムの教育活動に即した分析を基礎としつつ、それらを全学的・横断的視点から統合・整理し、全学的な教学マネジメント及び内部質保証を支える基盤的機能として位置づける。

○この目的達成のため、IRを各学部教授会傘下の委員会から切り離し、データを分かりやすく視覚化するBIツール「Tableau」を活用した全学的組織として再構築する。

この制度設計の構築によって本学のIRは、

- ・各学部に根差した分析を行う
- ・全学的な観点から課題を可視化
- ・教学に関する意思決定や改善検討に資する材料を提供することのできる「自らデータに基づいて大学の現状を明らかにする機能」の搭載と一層の拡充が期待される。

【看護学部】

○各種調査(卒業生調査、全学年学修行動調査、卒業時調査)を継続して実施する。

○教育課程の評価として積極的な改善に取り組めるよう、調査分析結果を活かしていく。

○学部内全アンケートの集約と管理を徹底する。

【東京メディア芸術学部】

○引き続き、各種調査・学生データを活用して教育効果の検証を進める。

<中期計画>

●FDによる授業方法・内容の向上

<2026年度事業計画>

【数値目標:FD実績(研修実施・受講)】

○以下により、大学設置基準(令和4年度改正)との整合性を担保する。

- ・FD及びSDを教学マネジメント及び内部質保証を支える基盤的取り組みとして再定義する。
- ・教員と職員の役割分担及び協働のあり方を、教育研究実施組織の考え方に基づいて整理する。
- ・その制度的位置づけを、学則及び関連規程に明確に位置づける。

【看護学部】

○授業の質の向上のための教育に関する研修を実施する。また、多様な学生の視点について知り、学ぶ機会を作る。

○年間を通して専任教員の出席率100%を達成する。

【東京メディア芸術学部】

○引き続き、学生の授業に対する希求に合わせ、授業の質の向上を目指し、教育方法に関する研修を検討する。また、科研費など外部資金の獲得を含めた研究活動、環境の醸成のための研修は、随時視聴できるオンデマンド方式での実施を引き続き検討する。

<基本戦略> ② 学生一人一人へのきめ細やかなサポート

【中期目標】

- ②-① 一人一人の学生が自らの学びの成果として身に付けた資質・能力を把握でき、振り返ることのできる仕組みづくりを展開する。

<中期計画>

●学生に寄り添った学修・学生支援体制の確保

<2026年度事業計画>

【看護学部】

- 各種調査(新入生調査、卒業生調査、採用病院調査、全学年学修行動調査、卒業時調査)の継続、調査分析結果の学部全体での共有、学修・学生支援の取り組みに活かせるような分析をさらに推進する。
- 合理的配慮における対象学生に対する配慮事項や具体例等について、教職員への共有をより一層図る。
- 学部長、学生委員長、学修支援室による「対策会議」を開催し、学生支援につなぐとともに、チューター、学生相談室との連携を強め、学生支援にあたる。
- 学生委員会の学年担当の役割を明確化し共有することで、特に1・2年生への支援体制を強化する。
- 意見を表出しづらい学生にも配慮し、意見箱に加えてチューター・学修支援室・学生相談室など多様な相談ルートとの連携を強化する。
- IR委員会の学生アンケート結果を踏まえ、学長と学生が直接対話できる場を設け、学生の声を大学運営に反映させる機会を作る。
- 入学後の学び(特に専門基礎、専門科目)について、相談できる体制を整えていく。

【東京メディア芸術学部】

- 合理的配慮については、今後も教職員研修や支援室との連携強化を通じて、より実効的な運用を目指す。
- OTA・LS(初年次教育専門の学生スタッフ)への研修内容の充実を図り、支援の質の向上を目指す。
- 学生支援ニーズの多様化に対応するために、支援スタッフの専門性向上や外部機関との連携強化を目指す。
- 心身の不調に対する学生のケア体制の充実度は、他大学と比べても引けを取らないが、さらなる対策が必要なため、改善案を模索する。

<中期計画>

●大学の教育活動への学生の参画

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

- 学修支援室として、学生委員会等との連携を図り、行事等を通して学年をまたいだ交流ができる場づくりを提供する。
- 学生からの視点を取り入れ、活用しやすい学修支援室の新入生ガイダンス用紹介動画を作成する。
- サークル活動の現状を可視化し、活動を活発化させるための支援や促しの方法を検討する。
- チューター制度を活用した異学年交流の機会をさらに検討し、学生間のつながりや信頼関係の構築を促進する。
- チューター面談を通して支援が必要な学生を抽出し、サポート体制を確立する。

【東京メディア芸術学部】

- 学生支援情報の可視化と利便性のさらなる向上を進めていく。
- 創作活動支援制度の利用が特定の学年や領域に偏る傾向があり、全学生への均等な情報伝達方法と活用を目指す。
- 学生サポートスタッフの研修時はもちろん、授業期間中のフォローアップ体制の強化も進めていく。
- 学生サポートスタッフの役割や求められるスキルを再確認し、実践的な研修内容の見直しを進める。

<中期計画>

●離学者の調査分析等に基づく学生ごとの学修サポートの実施

<2026 年度事業計画>

【数値目標:退学率】

【看護学部】

- OLMS(教務システム)を用いて学修における目標を設定し、適宜評価を行う。
- GPA が低い学生への面談、学修支援のあり方を再検討し、システムとして学修支援体制を整えていく。
- 各部署管理の学生に関する情報の共有を進める。学修サポートにつなげることができるよう収集した情報をもとに退学者、休学者分析を行い、学部全体に提言する。
- 学生委員会・チューター・学修支援室間の情報共有体制を整備し、支援に必要な情報を確実に連携できる仕組みづくりを進める。
- 実習や学修面で支援が必要と判断した学生については、これまで同様に学生の許可を得たうえで学部ミーティング等で情報を共有し、早期に介入できる体制を強化する。

【東京メディア芸術学部】

- 入試区分・入試スコア・入学前教育参加状況等のデータと GPA の相関を集計し、退学予備軍となり得る学生のモデル化を実施し、入学時にアドバイザー教員と共有することで早期の学修サポートにつなげる。
- 引き続き、アドバイザー/ゼミ担当教員・学務課・カウンセリングルームの各組織が連携を密にして学生情報を共有し、中途退学の防止に努める。

<中期計画>

●学生主体の学びの促進のための全学的なプラットフォームの導入・運用

<2026 年度事業計画>

OGAKUEN/UNIPA の運用支援及び事業者への連携支援を継続する。

【看護学部】

○教職員及び学生が相互に学生の学修状況を可視化できるよう、LMS(教務システム)上に実装するメニュー等を検討し、運用する。

○LMS(教務システム)において、ディプロマ・ポリシー到達度可視化の運用を始める。

【東京メディア芸術学部】

○UNIPA 学修ポートフォリオ(ディプロマ・ポリシー到達度の可視化)の実装に向けた作業を進める。

○2025 年度に定めた作業フローを 2026 年度も運用する。

○引き続き、学生からの要望も踏まえたより効果的な連絡ルールを検討する。

<中期計画>

●【看護・助産】看護師・助産師をめざす国家試験対策

<2026 年度事業計画>

【数値目標:看護師国家試験合格率】【数値目標:助産師国家試験合格率】

【看護学部】

○看護師国家試験の合格率96%以上を目標とする。

○IR 委員会と国家試験対策委員会と連携し、合格者・不合格者の傾向分析を行い、教授会で報告する。また、分析傾向を踏まえた国家試験対策を計画できるよう国家試験対策委員会へ情報提供する。

【助産学専攻科】

○助産師国家試験全員合格を目指す。

○国家試験に向けた年間計画では、実習中も計画的に学修を進めることができるよう、対策を練る。

<中期計画>

●学生の能力・可能性を活かしたキャリア支援

<2026 年度事業計画>

【数値目標: 卒業時アンケート調査】【数値目標: 就職希望者の就職率】

【看護学部】

○学生の希望と個々の特性に応じた就職活動支援を継続する。

○就職希望者の就職率100%とする。

○学生の能力の教育評価を卒業時調査、卒業生調査、採用病院調査として継続し、分析した結果を学部全体に提言し、学部教育並びにキャリア支援の充実を図る。

○本学の今後の教育に寄与できるような卒業生調査の内容・方法を検討するとともに、回収率 50%以上を目指す。

【東京メディア芸術学部】

- 学生個々の特性に応じたきめ細かいキャリア・カウンセリングを継続実施する。
- 「情報共有会」にて教職員間の学生情報共有を行う。
- 大学職業指導研究への人員追加を検討する。その他、必要に応じてFD もしくは SD に随時積極的に参加する。
- 授業の分野基礎の内容と重複しないよう配慮し、継続してレベルの高い業界・職種セミナーを実施する。
- 在学生及び企業等へのアンケート等を実施する。より充実した支援内容を実施できるよう努力する。
- 就活手帳の代替えを作成する。
- 引き続き、国際センターと協力し、留学生への充実した就職活動のサポートを検討し、実施する。
- 引き続き、広報紙”づかキャリア”の発行及び”ポートフォリオ閲覧会”を開催する。

<中期計画>

●留学生支援の充実と国際交流の拡充

<2026 年度事業計画>

- 中国伝媒大学と半期ごとにそれぞれの国で短期研修を継続して行う。また、具体的な交流事業（Aniwow！への参加、NEO×PICNIC の交流事業等）を継続して推進する。
- 北京城市学院学生の短期研修受け入れも継続して行う。また、具体的な交流事業（北京城市学院 NEO 制作、教員及び学生の交流等）を積極的に推進する。
- 在外日本大使館の実施するイベント、希平会の実施するイベントへの参加を継続する。

【東京メディア芸術学部】

- 年間スケジュールを立て、具体的な内容について適切に実施する。
 - ・留学生新入留学生ガイダンスを行う。
 - ・全留学生を対象とした定期面談を年 1 回以上実施する。
 - ・日本語力向上のための留学生チューター制度事業を継続して行う。
 - ・留学生保護者と連携し、成績不振留学生への指導の効率化を図る。
 - ・日本文化理解促進のためのイベントを年 2 回以上実施する。
 - ・日本語及び専門技術学修の一環としてのアフレコ大会を実施する。
 - ・卒業学年留学生を対象とする在留資格変更・就職ガイダンスを行う。
 - ・入国管理庁の「適正校」として選定されるよう、在籍管理を緻密に行う。

【中期目標】

- ②-② 学生が不安なく充実した学生生活を送れるよう支援制度面、学修環境面での充実を図る。

<中期計画>

●各種経済支援制度の充実

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

- 引き続き、経済的支援が必要な層へ効果的なアプローチ方法を再考する。
- 看護学部成績優秀者特待生制度について、学生の学習意欲の高揚との相関性などを確認・分析し、必要に応じて要件を引き続き再考する。

【東京メディア芸術学部】

- 学生の多様な活動形態に応じた支援内容の改善や、利用後のフィードバック収集を通じた制度のブラッシュアップも進めていく。
- 学生への周知をより丁寧に行い、高等教育の支援新制度のさらなる活用を目指す。

<中期計画>

●学生からの意見・要望の把握による学生のキャンパスライフの充実

<2026 年度事業計画>

- 学修行動・学生生活に関する調査により学生支援ニーズを把握し、必要に応じ学生生活・学内環境の改善・充実につなげる。

【看護学部】

- 調査を継続し、分析した内容を学部と各部署へ提言し、学生生活・学内環境の改善を推進する体制を整備する。
- 意見箱の利用方法についての周知を強化し、意見箱以外の相談窓口との連携も促進する。
- IR 委員会の学生アンケート結果を踏まえ、学長と学生が直接対話できる場を設け、学生の声を大学運営に反映させる機会を設ける。
- 引き続き、ロッカー環境改善の取り組みを継続し、「定期的な状況把握」、「学生参加型の啓発」、「行動変容を促す工夫」、「利用ルールの周知」を主として、環境の維持・改善を図る。

【東京メディア芸術学部】

- 引き続き、学修行動調査を実施し、学生からの意見・要望等については関連委員会で対応する。また、調査結果の一部はポスターの形式で学生に公開し、学生生活の充実に活用する。

<中期計画>

●学生の学修を支えるための安全安心で快適な学修環境の提供

<2026 年度事業計画>

- 基幹サーバー(大阪梅田キャンパス 3 台、東京新宿キャンパス 3 台設置)のうち、2021 年度設置の大阪梅田キャンパスの 1 台を経年劣化のため更新する。
- 認証サーバーについて、シングルサインオンを念頭に置きながら、認証機能の外部化、統合、冗長化の検討を継続する。

【大阪梅田キャンパス】

- 502 講義室及び 702 演習室の AV ラック・音響設備の改修を検討する。
- 設置から 23 年を経過した東棟空調システムを更新する。
- 設置から 23 年を経過したエレベータ(1・2号機)の全面リニューアル工事を実施する。
- 西棟 6 階テラスを改修し、学生の休息スペースとして活用できるように整備する。

【東京新宿キャンパス】

○101 ギャラリースペースを活用した広報について、より戦略的な動きが取れるように担当教職員の指名を検討する。

○引き続き、必要性・重要度に応じてキャンパス施設の修繕を進める。

<中期計画>

●教育に寄与する図書館機能の充実

<2026 年度事業計画>

【両キャンパス共通】

○リンクリゾルバシステム(利用者にとって最適な適切な電子資料を抽出してくれる仕組み)を導入し、購入・フリーデータベース、電子書籍活用の利便性を向上させることで学生の学修を支える環境を提供する。

○貴重図書のデジタルアーカイブ化からデジタルアーカイブに取り組み、ポーンデジタル資料のデジタルアーカイブ化研究など、デジタルアーカイブの活用による学習環境の向上を目指すための研究を続け、将来の予算化を目指す。

○十三倉庫保管の芸術に関する貴重書の活用について検討する。

○電子書籍の利用促進を図る。

○大学図書館全体として、ライブラリー用(著作権処理済:上映権付)の映像資料一覧を共有し、必要に応じて、各キャンパス図書館において学内上映会を開催する。

○機関リポジトリを再構築し、電子による学部紀要化を進めることにより学修環境の向上を図る。

【大阪梅田キャンパス】

○既存の芸術系図書による「ハートの看護を、アートで学ぶ」に対応した書架構築を行う。

○子育て支援、終末医療、グリーフケア面で重視される絵本資料の充実を図る。

○リンクリゾルバシステム(利用者にとって最適な適切な電子資料を抽出してくれる仕組み)導入後、利用者のシステムへの理解と利用促進を図る。

【東京新宿キャンパス】

○7 階図書館の書架狭隘化に伴い、永年保管雑誌の製本化及びマンガ資料の整理を行う。

○視聴覚資料の整備として、ライブラリー用の視聴覚資料の購入を行う。

○入館者数、貸出件数、ラーニング・コモンズ利用者数、視聴覚貸出数、大学院生図書館利用者数を前年比 100%以上に設定する。

○利用率向上のため、毎月 1 回、Teams もしくはXで数冊新着資料の公開を行う。

○ライブラリー用の映像資料(著作権処理済:上映権付)資料を活用し、東京メディア芸術学部の学びに適した学内上映会を実施する。

○電子書籍の利用率向上のため、電子マンガ・電子雑誌(法人向け)サービス導入を行う。

<中期計画>

●学生の自主学習等の場の整備

<2026 年度事業計画>

【大阪梅田キャンパス】

○2階閲覧室の無人開館時間延長を検討する。

【東京新宿キャンパス】

○ラーニング・コモンズ備品入れ替え後の利用者数の推移を調査するとともに、利用に関するアンケート調査を実施する。

2 研究の深化と社会への寄与

<基本戦略> **3** 社会の発展に寄与する研究の充実

【中期目標】

3-① 最新の学問的成果を研究によりフォローし、それを教育・授業のために活かすとともに、地域社会に発信・還元する。

<中期計画>

●有用性の高い研究による研究成果の社会への還元

<2026 年度事業計画>

【看護学部】

○紀要編集の円滑化のために、投稿規定・執筆要領・査読要領の見直しを行う。

○両学部による「大学紀要」ではなく、「看護学部紀要」として独立する。また、冊子での発刊は中止とし、機関リポジトリ公開の一本化を図る。

○外部査読依頼のための細則に基づき、適切な運用を目指す。

【東京メディア芸術学部】

○投稿者数の増加を見据え、投稿規定の見直しを適宜進める。

○教育を基盤とした研究の活性化を目的として、学長裁量経費助成による研究成果の掲載と、紀要投稿を連動させた募集を促す。

<中期計画>

●外部研究資金(科学研究費補助金等)の獲得

<2026 年度事業計画>

【数値目標:(看護)外部資金(受託・共同研究含む)応募者割合】

【数値目標:(東京)外部資金(受託・共同研究含む)等取組み割合】

○引き続き、外部研究資金等の獲得を目指すため、より多くの研究者の応募・取組みへの参加促進を図る。

【看護学部】

○外部資金の応募割合が50%以上となるように、研究のサポート体制を組織的に検討する。

○OFDとサポート体制の整備で、科研費の獲得を推進していく。

○引き続き、教員の倫理観の向上を図るため、研究倫理研修会を開催する。

【助産学専攻科】

○全員が外部研究資金並びに学長裁量経費助成に応募する。

【東京メディア芸術学部】

○応募数を増やすべく、応募におけるサポート(オンデマンド資料)体制を検討する。

<基本戦略> ④ 大学院の改革による高度な人材育成

【中期目標】

④-① 本学の特色を踏まえた大学院の再編に取り組むとともに、新たな大学院の可能性を追求する。

<中期計画>

●【東京】大学院メディア芸術研究科における改革・改善の取り組み

<2026年度事業計画>

○指導教員増加に伴う安定した定員を確保するとともに、プロデュース関連講義の開設に向けた検討を開始する。

○より優秀な人材確保のための選抜基準について引き続き検証を行う。

<中期計画>

●看護系大学院の可能性の追求とその課題への対応

<2026年度事業計画>

○設置をしていくための可能性を現状から検討する。

<基本戦略> ⑤ 社会連携・地域活動の推進

【中期目標】

⑤-① 大学に対する社会的評価を高めるため、社会連携を戦略的に位置づけ、取り組みを強化する。

<中期計画>

●産学官との連携による地域社会への貢献と高大連携の充実

<2026年度事業計画>

【大阪梅田キャンパス】

- 2026年度も宝塚市立病院でのトリアージ訓練への参加に向けて調整を進めていく。
- 包括連携協定の締結を受け、大阪市北区との連携をより強固なものにしていく。
- 2027年度実施予定の大阪国際空港航空機事故対策総合訓練へ、より多くの学生が参加できるよう調整を図る。
- 連携協定を結んでいる(株)KULと様々な連携事業の可能性を探っていく。
- 地域との連携として、「1,000,000人のキャンドルナイト茶屋町スロウディ 2026」「UMEDA MEETS HEART2026」参加に向けて調整を図る。
- 引き続き、両キャンパス間の連携について可能性を探っていく。
- 加盟する大学コンソーシアム大阪を通して、より強固に大学間連携ができないかの可能性を探っていく。

【東京新宿キャンパス】

- 2025年度に開始した新たな取り組みを継続しつつ、さらなる充実に努める。
- 取組実績を大学ホームページ、広報媒体を通じて効果的に発信し、大学のブランディングへ活用する。

<中期計画>

●SDGs への全学的な取り組み

<2026年度事業計画>

- 全学におけるサステナビリティ推進を図っており、より強固な取り組みの宣言と確立と認知を行っていく。
- 地域活動、高大連携、学生や教職員の活躍など、本学が社会に貢献する活動をより強固にし、引き続き積極的に情報発信を行っていく。

【中期目標】

- ⑤-② 幅広い世代を対象とした学習機会の提供を図る。

<中期計画>

●リカレント教育の推進と生涯学習の振興

<2026年度事業計画>

- 大阪梅田キャンパスの土日活用の方法を考え、社会人向け講座実施の実現可能性を探っていく。
- 「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」が主催する生涯学習講座「公開講座フェスタ 2026」に生涯学習を推進する講座を提供する。

3 ガバナンスの強化と持続的組織運営

<基本戦略> ⑥ 学生の確保と戦略的広報の推進

【中期目標】

- ⑥-① 受験生に選ばれる大学として、志願者の増による入学者の安定的な確保を図り、学修意欲の高い人材を受け入れる。

<中期計画>

- アドミッション・ポリシーに即して、入学者選抜の改善等により、本学で学びたい学生、学修意欲の高い学生の確保

<2026 年度事業計画>

【数値目標:入学定員充足率】

【看護学部・助産学専攻科】

- 看護学部の定員充足率:入学予定者数を 100%確保する。

助産学専攻科:100%を確保する。

- 2025 年度に再定義・再構築した学生募集の広報戦略に基づき、学内リソースの「選択と集中」を強化する。

- 他大学にはない差別化された特長的な学び(顧客体験価値)に加えて、「宝塚大学の 4 年間で、なりたい看護師に成長できる」という高校生に刺さるナラティブ(物語)マーケティングを強化していく。

- 資料請求からの来学率・出願率を高めるため、ランディングページ・LINE 友だち登録に誘引する導線を構築する。

- LINE 友だち登録者数を KPI(重要業績評価指標)に位置付け、各施策が LINE 友だち登録につながっているか PDCA サイクルを回して、WEB・デジタルマーケティング施策の精度を高める。

- 引き続き、対面接触機会(タッチポイント)での広報に注力し、オープンキャンパスからの出願率を高める。

【東京メディア芸術学部】

- 入学定員の確保に向け、2026 年度学生募集広報の重点戦略として、以下に取り組む。

- ・WEB DM、紙 DM を利用したプッシュ型広報により認知を拡大させる

- ・募集管理システム(infoCloud)を活用したフォローアップ及び SNS によるデジタルマーケティングにより、接触した高校生のナーチャリング(志望度育成)を行う

- ・オープンキャンパス参加～出願間の離脱を減少させるため、オープンキャンパスイベントの見直しを行う

- ・一部オープンキャンパスを体験入学型に変更し、本学部の特徴をより理解してもらうための機会を提供する

- ・選抜内容の見直しを継続的に行い、受験生のニーズに応える

- 高校生と直接接触できる機会である進学相談会及び校内ガイダンスに、重点地域に絞りつつも積極的に数多く参加する。また、進学相談会におけるブース装飾を魅力あるものへとリニューアルする。
- 指定校及び在校生出身校への重点的な訪問を行い、継続的な出願を促す。

<中期計画>

●**入学者選抜の評価及び妥当性の検証**

<2026 年度事業計画>

【看護学部・助産学専攻科】

- 入学者選抜の妥当性評価の検証に活かせるよう、入学者選抜区分ごとに新入生調査、学修行動調査、卒業時調査結果をデータ整理する。
- 入学者選抜方法の妥当性を検討し、入試配点の割合の見直しをする。

【東京メディア芸術学部】

- 引き続き、入学者選抜の妥当性について検証を行い、入試委員会に対して提言を行っていく。
- 入試に対する受験生のニーズを分析するとともに、入試制度改革を継続して行う。

<中期計画>

●**高大連携による大学教育への円滑な移行**

<2026 年度事業計画>

【看護学部・助産学専攻科】

- 高大連携講義の内容と担当者の見直しを行い、興味がある内容を紹介していく。
- 引き続き、高等学校との信頼関係構築に注力し、本学で学びたいという意欲の高い学生を安定的に確保するために高大連携、高大接続を強化する。

【東京メディア芸術学部】

- 高校教員向け説明会の内容の見直しを図る。

【中期目標】

- ⑥-② デジタルメディア等を活用した情報発信により、本学のブランド力の向上を図る。

<中期計画>

●**本学の特長や求める学生像の発信と学生の安定的な受け入れ**

<2026 年度事業計画>

【看護学部・助産学専攻科】

- 2025 年度に再定義・再構築した学生募集の広報戦略に基づき、「宝塚大学の 4 年間でなりたい看護師に成長できる」という高校生に刺さるナラティブ(物語)を広報の核とする。
- デジタルマーケティングの再構築を行い、学生募集施策の効果検証を短い期間で実施して

PDCA を回せる仕組みを確立する。また、MA(広報自動化)ツールを使用して、LINE 友だち登録者をセグメント(志向)に分類し、一人ひとりの状況や志向に合った情報提供を実施してナーチャリング(志望度育成)する仕組みを構築する。

○オウンドメディアであるホームページやYouTube、SNS の役割を明確にし、特に非対面接触機会(タッチポイント)のハブになるホームページコンテンツを大幅に刷新する。

○新たな施策として、資料請求者に対して「なりたい看護師診断(仮称)」を WEB 上で実施する。小児看護師や救急看護師など本人の特徴に合った仕事(職種)をレコメンド(推薦)することで、なりたい看護師像を明確にして本学への入学意欲を高める施策につなげていく。

○学生生活の継続的な発信をする。

○引き続き、WEB 広告を適切な配信がされるようターゲティングを設定し、「イベント特設サイト」と「入試特設サイト」をランディングとし、広告出稿を行う。

○引き続き、SNS 運用に注力し、Instagram、Tiktok などで「リアル」な看護学部を発信していく。学生、卒業生を積極的に登用し、本学の長がわかるような運用を目指し更新を進めていく。

○近隣競合との差別化を図るためにも、引き続きアカデミックで「近さ」を強調したキービジュアルを設定、統一したデザインとして告知ツールに使用し、長を効果的にアピールしていく。

【東京メディア芸術学部】

○インターネット広告について、東京新宿にあること、学科・分野の魅力、キャリアの見通し、クロスオーバー型教育、高校生が共感できる学生生活に重きを置いた広報素材を用意し、展開する。

○募集管理システム(infoCloud)を活用したフォローアップ及び SNS によるデジタルマーケティングにより、接触した高校生のナーチャリング(志望度育成)を行う。infoCloud 上でスコア化された接触度を基に個別でのフォローも実施する。

○オープンキャンパス参加～出願間の離脱率を減少させるため、オープンキャンパスイベントの見直しを行う。特別イベントを設置し、参加の意義を増進させる。また、外部講師を招いての受験対策も実施する。

○一部オープンキャンパスを体験入学型に変更し、本学部の長をより理解してもらうための機会を提供する。

<中期計画>

●本学の様々な取組をホームページを中心に広報活動として発信

<2026 年度事業計画>

○卒業生にフォーカスをしたロールモデルサイトの充実を図り、東京メディア芸術学部の卒業生のロールモデルページも作成できるよう進めていく。

○東京メディア芸術学部と連携をとりながら、ホームページのブラッシュアップを進めていく。

【看護学部・助産学専攻科】

○他大学にはない差別化された取組を充実させるため、教職協働で学生・高校生に刺さる魅力的な課外プログラムを拡充していく。特に、災害・救急看護師や小児看護師・助産師を目指す学生・高校生の顧客体験価値を高めるプログラムを拡充し、その実施プロセスや学修成果の

情報発信を通じて、「宝塚大学の4年間で、なりたい看護師に成長できる」というナラティブ（物語）の浸透を図る。

○「分野別リレー」といった形で、学部・専攻科それぞれの授業や取り組みの紹介をつないでいくような企画を立案し、ホームページやSNS等で発信していく。

○引き続き、新着記事更新や新規コンテンツ作成など、生き生きとしたホームページ作成を目指し更新を進めていく。ホームページ全体並びに「イベント特設サイト」「入試特設サイト」についてもアクセス解析を行いながら、タイムリーに更新を進めていく。

○キャンパス間での交流については、対面、オンライン、両方での交流について引き続き検討していく。例えば、留学生へのインタビューを実施し、日本の医療で困ったことのヒアリングや学部生にも同様のヒアリングを行い、相互の情報交換や学生自身の看護観やスキルアップに生かせるような機会を作る。

○高大連携ページのコンテンツの充実と、社会連携ページについてもコンテンツの充実を進めていく。

【東京メディア芸術学部】

○学部ホームページトップを刷新し、流入導線を整理する。

○学生作品のウェブアーカイブ化を推進し、学生募集広報に活用する。

○受験生応援サイトをフルリニューアルする。オープンキャンパス日程や選抜情報のまとめサイトではなく、本学部の特徴を知ってもらい、興味を持ってもらうためのランディングページとして再構築する。

<基本戦略> 7 ガバナンスの強化による経営改革

【中期目標】

7-① 各戦略を着実に進めるため、ガバナンス体制を強化する。

<中期計画>

●機能的なガバナンス体制による経営部門と教学部門の適切な役割分担

<2026年度事業計画>

○引き続き、法人経営は理事長主宰による管理運営協議会、教学は学長主宰による学部長等会議のもとで取り組む。

○理事会・評議員会を適切・確実に運営し、法人のガバナンス体制を強化する。

○事務局組織の運営や意思決定を効果的に行う仕組みを検討し、実施する。

<中期計画>

●ガバナンス・コードに基づく学校法人の運営

<2026年度事業計画>

○引き続き、最新版の日本私立大学協会 私立大学ガバナンス・コードに基づいた点検を行い、

組織的に確定した点検結果報告書の本学ホームページへの掲載と日本私立大学協会に対して点検結果報告書の提出を行う。

- 理事、評議員、監事の役員等について、研修機会を積極的に提供する。
- 理事会、評議員会の開催日程について、2025年度の運営を点検した上でより良いスケジュールを組む。

【中期目標】

- 7-②** 効果的な人員配置を進めるとともに、人材育成及び職場環境活性化のための人事制度改革を推進する。

<中期計画>

●人事管理による教職員の確保と配置

<2026年度事業計画>

- 両学部とも補充によって現状の予算定数を維持しつつ、新たな課題対応のために必要な増員はその都度検討する。

【東京メディア芸術学部】

- アニメーション分野教員について、適切な人材確保を進める。
- 引き続き、各部署の業務実態に応じた職員配置を検討していく。

<中期計画>

●SDによる教職員の資質・能力の向上

<2026年度事業計画>

【数値目標:SD実績(研修実施・受講)】

- 引き続き、SD実施年間計画に基づき、研修を実施するとともに、学外セミナー等についても学内への案内・周知する。

<中期計画>

●人事評価制度の確立と働きがいのある職場環境の整備

<2026年度事業計画>

- 事務職員の人事評価制度をもとに、昇給等の処遇に反映する仕組みの構築等により、エンゲージメントが高まるよう評価制度の活用を図る。
- 職員のエンゲージメント向上を図るため、エンゲージメント調査を実施し、意識や課題を把握する。調査結果を職場環境の改善に活かし、働きがい向上に向けたPDCAを推進する。

<中期計画>

●多様な学生・教職員の活躍の場が広がるようダイバーシティ(多様性)の推進

<2026 年度事業計画>

- 様々なバックグラウンドを持つ学生が安心して学べ、学生一人ひとりの困りごとが少しでも解消・軽減できるよう、学生相談室、学修支援室、チューターや国際センターなどの連携により、学業、学生生活、キャリア等の支援を多面的、包括的に支援を進める。
- 学生や教職員を含む学内関係者に対し、ハラスメント窓口の周知を図る。
- 異文化交流の機会や留学生の日本文化理解などを進める。また、地域社会との交流などによる地域への理解促進を進める。

【中期目標】

- 7-③ 学校法人としての社会的責任の観点から、学生及び教職員の安全・安心の確保を図る。

<中期計画>

●学生及び教職員の安全・安心確保のための危機管理体制の確立

<2026 年度事業計画>

- BCP(業務継続計画)は自然災害編、感染症対策編の2点、危機管理マニュアルとともに毎年度見直しを行う。
- 衛生委員会は両キャンパス間で情報共有を行う。
- 災害や職場環境のみならず、入試や個人情報など人為的なインシデント、他にクマとの遭遇が発生した場合の対処法に着手する。

【大阪梅田キャンパス】

○防犯体制の強化

受け子、薬物、さすまたの使用など曾根崎警察署による詐欺被害・犯罪防止・防犯対策を計画する。

○防災・減災について

従来の消防避難訓練からグレードアップして、危機管理マニュアルに基づいた実践的な訓練を実施する。

○緊急時対応備品等について

2025 年度に立てた計画の遂行を心がける。

【東京新宿キャンパス】

○防災備品の拡充

引き続き、飲料・食品の入れ替え及び在庫数の純増を図る。食品については、今まで乾パン、クラッカーに留まっていたが、副菜、栄養バランス食品などについても拡充を図る。

<中期計画>

●コンプライアンス意識の高揚と人権尊重、法令遵守の徹底

<2026 年度事業計画>

- OSD の年間計画において、ハラスメント防止を含む、倫理的な行動を促す内容を全体研修として

計画する。

○引き続き、「内部統制システム整備の基本方針」に基づく実効性のあるコンプライアンス推進等の体制整備に取り組む。

<中期計画>

●情報システム管理体制の構築

<2026年度事業計画>

○セキュリティ・ポリシーの策定を、既存の個人情報管理ルールとの分担・整合を図りつつ、CSIRT(セキュリティ対応体制)の整備に取り組む。

○情報センターサイトのコンテンツを拡充し、より使いやすいIT環境に役立てるとともに、学内ITリテラシー向上を支援する。

【中期目標】

7-④ 学校法人としての説明責任を果たすため、広く社会へ情報を公開する。

<中期計画>

●財務情報・教育研究活動等、情報公開の充実

<2026年度事業計画>

○引き続き、財務情報・教育研究活動等、情報公開の充実を図るとともに、財務をはじめとする組織運営状況等を情報・データとして積極的に公表していく。

<基本戦略> 8 持続的・安定的な財政基盤の確立

【中期目標】

8-① 学生納付金に依存した財務構造からの脱却と安定的で能動的な財政構造への転換を図る。

<中期計画>

●適切な財政運営による経常収支差額の改善

<2026年度事業計画>

【数値目標・経常収支差額比率】

○これまで宝塚キャンパスにかかっていた減価償却費及び維持管理経費の負担がなくなり、実態に即した収支差額が浮き彫りになってくるため、2026年度における経常収支差額の黒字化に向けて、収入・支出の両面において、様々な取り組みを実行する。

<中期計画>

●**キャンパスの維持管理と計画的な施設整備**

<2026 年度事業計画>

【大阪梅田キャンパス】

- 502 講義室及び 702 演習室の AV ラック・音響設備の改修を検討する。
- 設置から 23 年を経過した東棟空調システムを更新する。
- 設置から 23 年を経過したエレベータ(1・2号機)の全面リニューアル工事を実施する。
- 西棟 6 階テラスを改修し、学生の休息スペースとして活用できるように整備する。

【東京新宿キャンパス】

- 1 階庇防水工事等のうち、優先度の高いものから着手する。

<中期計画>

●**全学挙げての積極的な外部資金の獲得**

<2026 年度事業計画>

- 私立大学等改革総合支援事業、教育の質に係る客観的指標調査とともに、教学組織の体制の整備を着実に進めて、少しずつでも加点獲得を目指す。

<中期計画>

●**適正な会計処理と厳正な会計監査の実施**

<2026 年度事業計画>

- 学校法人会計基準、本学の経理規程、監査法人における助言を踏まえて、適正な会計処理に努める。
- 内部監査を通して、法人の健全な運営に資するよう業務の改善・合理化のための助言、提案等に努める。

<基本戦略> **9** 第2の開校に向けての前進

【中期目標】

- 9**-①「宝塚大学ビジョン 2027」を策定し、本学のさらなる発展に向けて、経営を確固たるものにするための基盤づくりとともに、収益力拡大に向けた新たな事業展開を図る。

<中期計画>

●**内外部の環境を分析し、5 年後のあるべき姿の明確化**

<2026 年度事業計画>

- 本学がどのような大学を目指していくのか、その方向性を提示するとともに、異分野、遠隔地キャンパスという本学の特殊な状況も十分に考慮し、新たな中期計画において将来像を描く。
- 前項のため、他大学の好事例を研究、参考とする。

○メディア芸術分野におけるコンテンツを我が国の産業として世界的に展開するという国の施策と密接に連携し、文化庁『クリエイター等支援事業』の助成を受け、助成期間終了後に本学に新たな教学組織を開設することも視野に入れ、調査研究やカリキュラム、プログラム開発に取り組む。

<中期計画>

●宝塚キャンパス閉鎖・譲渡後の新規展開の検討・推進

<2026年度事業計画>

○宝塚キャンパスの譲渡が完了したが、新たな展開を考える前に、まず本法人・大学の将来像を明確に示す必要がある。

○現中期計画の最終年度であり、その総括と新たな中期計画の策定に取り組む。新中期計画の策定にあたっては、2027年度の周年事業も念頭に置く。

<基本戦略> 10 内部質保証システムの推進

【中期目標】

10-① 全学的に点検・評価を実施し、教育研究活動及び大学運営の改善・向上に努め、高等教育機関としての質の確保を図る。

<中期計画>

●年度ごとの事業計画との連動による中期計画の進捗管理

<2026年度事業計画>

○引き続き、中期計画及び毎年度の事業計画の進捗管理を自己点検・評価することによりPDCAサイクルを回していく。

○主要事項の数値目標については、引き続き毎年度の事業計画における数値目標として設定し、中期計画の最終年度となっているので達成に向けて取り組む。

<中期計画>

●内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施

<2026年度事業計画>

○本学の人的・組織的体制を踏まえ、昨年度以前と同様、内部質保証の実質化に資するよう自己点検・評価を効果的・効率的に進める。

○自己点検・評価を中期計画の進捗管理に限定するのではなく、大学全体の教育・研究活動の質を継続的に保証する中核的仕組みとして再定義し、その趣旨及び制度上の位置づけを関連する諸規程に明文化し、全学の構成員に対してSD研修会等を通じて、その考え方の共有・周知に努める。

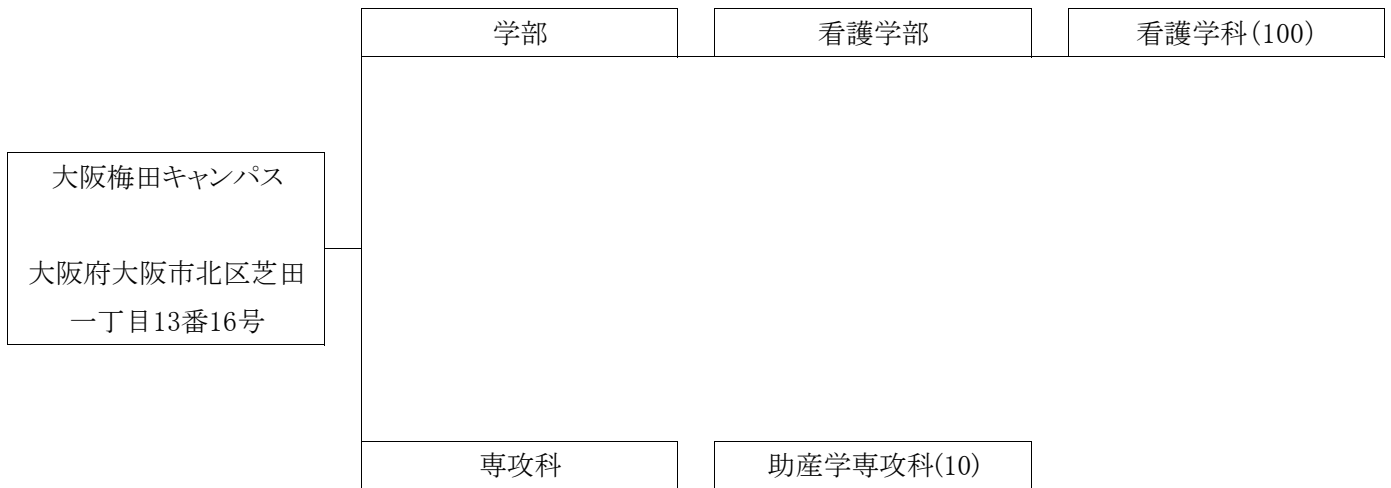
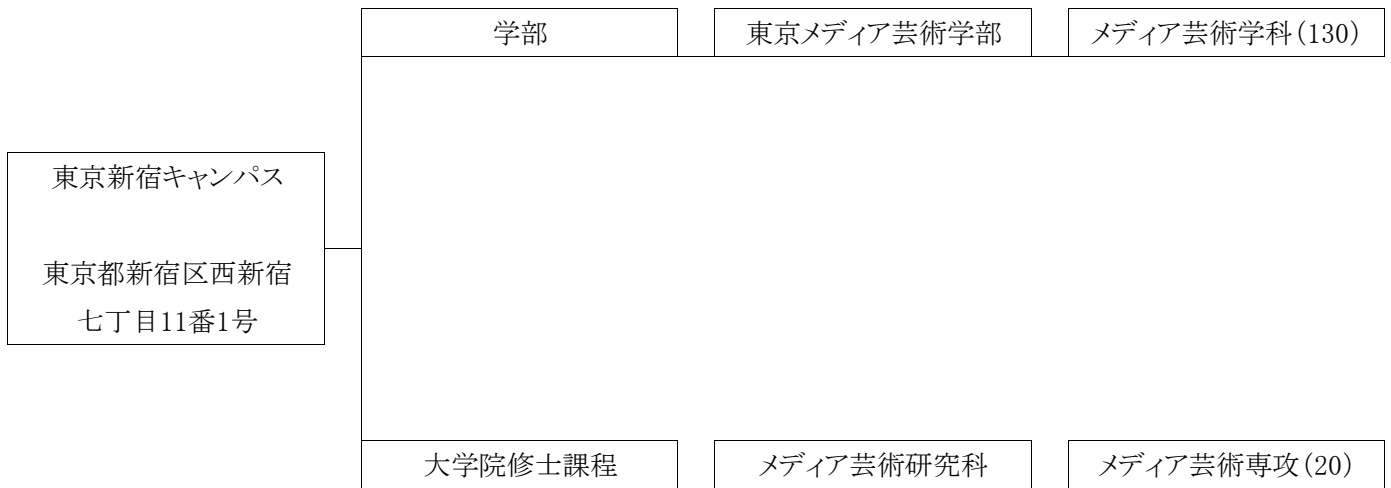
Ⅲ 教学組織

学部・研究科・専攻科の構成および入学定員(別紙 ①)

Ⅳ 学年暦

1. 東京メディア芸術学部(東京新宿キャンパス 別紙 ②)
2. 看護学部(大阪梅田キャンパス 別紙 ③)

学部・研究科・専攻科の構成及び入学定員



2026年度(令和8年) 学年暦

宝塚大学 東京メディア芸術学部(東京新宿キャンパス)

		日	月	火	水	木	金	土	備 考	日	月	火	水	木	金	土	備 考		
2026 ・ 4月				1	2	3	4		3/26(木) 2～4年前期ガイダンス資料の配布 3/27(金) 1年生オリエンテーション 3/26(木)～4/1(水) 前期履修登録 3/31(火)学部2～4年、大学院2年健康診断 4/1(水) 学部1年、大学院1年健康診断 4/2(木) 入学式 4/6(月) 前期授業開始 4/29(水) 平常授業実施					1	2	3	10/3(土)予備報告会【大学院】 10/12(月) 平常授業実施 10/22(木)～23(金) 宝翔祭設営・準備(授業停止) 10/24(土)・25(日) 宝翔祭、前期造形展 10/26(月) 宝翔祭片付日(授業停止)		
		5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9		10	
		12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16		17	
		19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23		24	
		26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30		31	
5月						1	2		5/4(月)～5/9(土)GW休み 5/23(土) 創立記念日(平常授業実施)								11/3(火) 平常授業実施 11/23(月) 平常授業実施		
		3	4	5	6	(7)	(8)	(9)		1	2	3	4	5	6	7			
		10	11	12	13	14	15	16			8	9	10	11	12	13		14	
		17	18	19	20	21	22	23			15	16	17	18	19	20		21	
		24	25	26	27	28	29	30			22	23	24	25	26	27		28	
		31									29	30							
6月			1	2	3	4	5	6		7/20(月)平常授業実施 7/27(月)～8/1(土) 定期試験・補講期間				1	2	3	4	5	12/29(火)～1/5(火) 年末年始休業
		7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12		
		14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19		
		21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26		
		28	29	30							27	28	(29)	(30)	(31)				
7月				1	2	3	4		8/3(月)～5(水) 前期集中講義 8/10(月)～16(日) 夏季休業 9/14(月) 後期ガイダンス 9/14(月)～18(金) 後期履修登録 9/28(月) 後期授業開始						1	(2)	2027 ・ 1月		
		5	6	7	8	9	10	11			3	(4)	(5)	6	7	8		9	1/15(金)学位請求論文等提出【大学院】 1/23(土)中間報告会【大学院】 1/26(火)～2/1(月) 後期定期試験・補講期間 2/12(金)～2/15(月) 後期集中講義
		12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15		16	
		19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22		23	
		26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29		30	
											31								
8月								1	9/14(月) 後期ガイダンス 9/14(月)～18(金) 後期履修登録 9/28(月) 後期授業開始			1	2	3	4	5	6	2027 ・ 2月	
		2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13		2/6(土)・7(日) 卒業・修了制作展 2/9(火) 公聴会【大学院】
		9	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)			14	15	16	17	18	19	20		
		16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27		
		23	24	25	26	27	28	29			28								
		30	31																
9月			1	2	3	4	5		9/14(月) 後期ガイダンス 9/14(月)～18(金) 後期履修登録 9/28(月) 後期授業開始				1	2	3	4	5	6	2027 ・ 3月
		6	7	8	9	10	11	12			7	8	9	10	11	12	13	3/12(金) 学位記授与式 3/20(土)・21(日) 後期造形展 26(金) 新入生オリエンテーション 3/31(水)新2～4年・大学院2年健康診断(仮) 【R9】4/1(木)新1年、新大学院1年健康診断(仮) 【R9】4/2(金) 入学式	
		13	14	15	16	17	18	19			14	15	16	17	18	19	20		
		20	21	22	23	24	25	26			21	22	23	24	25	26	27		
		27	28	29	30						28	29	30	31	4/1	2	3		
											4	5	6	7	8	9	10		

曜日別授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- … 授業日
- … 集中講義
- … 定期試験・補講期間
- … 日曜・祝祭日(休業日)
- … 祝祭日(平常授業実施日)
- … 休業日(大学施設閉館日)

2026(令和8)年度 学年暦

宝塚大学 看護学部 (大阪梅田キャンパス)

年 月	日							備 考	月	日							備 考	
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
2026年 4月				1	2	3	(4)	4/1 前期履修届提出締切日 (2~4年次生) 4/1~6 ガイダンス期間	10月					1	2	3	10/12 平常授業実施	
	(5)	6	7	8	9	10	11	4/3 前期履修届提出締切日 (1年次生) 4/4 入学式 (大学施設閉館)		(4)	5	6	7	8	9	10		
	(12)	13	14	15	16	17	18	4/7 前期授業開始 4/14~4/16 履修登録修正期間		(11)	(12)	13	14	15	16	17		
	(19)	20	21	22	23	24	25			(18)	19	20	21	22	23	24		
	(26)	27	28	(29)	30			4/29 平常授業実施		(25)	26	27	28	29	30	31		
5月						1	2	臨地実習(5月~7月)4年次生 5/23 創立記念日(平常授業実施)	11月	(1)	2	(3)	4	5	6	7	11/3 平常授業実施	
	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)			(8)	9	10	11	12	13	14		
	(10)	11	12	13	14	15	16			(15)	16	17	18	19	20	21		
	(17)	18	19	20	21	22	23			(22)	(23)	24	25	26	27	28		
	(24)	25	26	27	28	29	30			(29)	30							
6月								総合実習(6/15~7/10のうち2週間)4年次生	12月				1	2	3	4	5	年末年始休業(12/29~1/5)
	(7)	8	9	10	11	12	13			(6)	7	8	9	10	11	12		
	(14)	15	16	17	18	19	20			(13)	14	15	16	17	18	19		
	(21)	22	23	24	25	26	27			(20)	21	22	23	24	25	26		
	(28)	29	30							(27)	28	(29)	(30)	(31)				
7月				1	2	3	4	7/20 平常授業実施 7/27 前期授業終了 7/28 補講日 7/29~8/4 前期定期試験	2027年 1月						(1)	(2)	1/12 後期授業終了	
	(5)	6	7	8	9	10	11			(3)	(4)	(5)	6	7	8	9	1/13~14 補講日	
	(12)	13	14	15	16	17	18			(10)	(11)	12	13	14	15	16	1/15~1/21 後期定期試験	
	(19)	(20)	21	22	23	24	25			(17)	18	19	20	21	22	23	1/22 基礎看護学実習IIオリエンテーション2年次生 1/22~23 4年次生 後期追・再試験	
	(26)	27	28	29	30	31				(24)	25	26	27	28	29	30	基礎看護学実習II(1/25~2/27のうち3週間)2年次生	
8月							1	8/5 基礎看護学実習Iオリエンテーション1年次生 夏季休業(8/12~17) 8/19~8/22 前期追・再試験 基礎看護学実習I(8/24~9/11のうち1週間)1年次生	2月		1	2	3	4	5	6		
	(2)	3	4	5	6	7	8			(7)	8	9	10	(11)	12	13		
	(9)	10	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)			(14)	15	16	17	18	19	20		
	(16)	(17)	18	19	20	21	22			(21)	22	(23)	24	25	26	27		
	(23)	24	25	26	27	28	29			(28)								
9月			1	2	3	4	5	9/7~11 分野別実習IIオリエンテーション3年次生 9/12 宝翔祭準備日(閉館日) 9/13 宝翔祭 9/14 宝翔祭(片付け予備) 9/14~18 看護とアート実習3年次生 9/15~18 後期ガイダンス 9/16 9月卒業生学位記授与式(予定) 9/18 後期履修届提出締切日 9/21~23 平常授業日 後期授業開始 9/28~30 履修登録修正期間 臨地実習(9月~3月)3年次生	3月			1	2	3	4	5	6	3/1~4 1・2年次生 後期追・再試験
	(6)	7	8	9	10	11	(12)			(7)	8	9	10	11	12	13		
	(13)	14	15	16	17	18	19			(14)	15	16	17	18	19	20		
	(20)	(21)	(22)	(23)	24	25	26			(21)	(22)	23	24	25	26	27		
	(27)	28	29	30						(28)	29	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- ... 授業日
- ... 定期試験
- 印 ... 祝日(平常授業実施日)
- 印 ... 日曜・祝日(休業日)
- () ... 大学施設閉館日